



小規模・家族農業ネットワーク・ジャパン
Small and Family Farming Network Japan

小規模・家族農業ネットワーク・ジャパン

(Small and Family Farming Network Japan: SFFNJ)

<https://www.sffnj.net/>

Facebook: <https://www.facebook.com/sffnj2017/>

Twitter: <https://twitter.com/sffnj2017>

1. 小規模・家族農業ネットワーク(SFFNJ)とは？

小規模・家族農業ネットワーク・ジャパン(SFFNJ)は、日本および世界で小規模・家族農業の役割と可能性を再評価し、小規模・家族農業を農業・食料政策の中心に位置づけることを求める、個人および団体のネットワーク (2017年設立)です。SFFNJは国連の2014年国際家族農業年を支持し、その10年間の延長を求める国際キャンペーン「国際家族農業年+10」を応援する活動を展開していきます。

2. 小規模・家族農業とは？

国際的に議論が高まっている「小規模・家族農業」とは、どのようなものでしょうか。国連では、「農業労働力の過半を家族労働力が占めている農林漁業」と定義しています¹。

家族農業は家族を基盤とした農業ですが、家族の形態は時代とともに変化しています。家族農業は人的つながり(絆)を持つ社会集団による農業であり、必ずしも血縁によって結びついた家族による農業のみではありません。非血縁の養子縁組や事実婚の家族も含まれるでしょう。また、一人で営む個人経営も、労働力の過半をその個人の労働力でまかなっている場合は、家族農業に準じて議論されています。つまり、家族農業とは、資本的つながりによって結合した社会集団による企業的農業に対置する概念として位置づけられています。今日では、法人化した家族経営の大規模農業も存在しますが、労働力の過半を家族労働力でまかなっていると定義することで、おおよその経営の性格区分をしています。もちろん、この定義は国・地域の多様性に合わせて検討されるべき課題です。

ところで、家族農業というと、どうしても封建的な家父長制のイメージや男尊女卑などによるジェンダーの問題を想起してしまうかもしれません。確かにこうした問題は、過去にも現在にも地域差はあるとしても存在しています。しかし、家族農業は時代の流れの中でつねに進化していく存在でもあります。より民主的な関係性の構築を目指す新しい家族農業が、日々地域の中で生まれていており、これは世界的な潮流にもなっています。

¹国連世界食料保障委員会・専門家ハイレベルパネル著『家族農業が世界の未来を拓く—食料保障のための小規模農業への投資—』農文協、2014年、および国際家族農業年に関するFAOウェブサイト (<http://www.fao.org/family-farming-2014/home/what-is-family-farming/en/>)をご参照ください。

もうひとつ、小規模・家族農業というと、どうしても「時代遅れ」「非効率」「儲からない」といった印象を持つ方もいらっしゃるかもしれませんが。これも国・地域による差がありますが、確かに近代的農業の視点からみて、このような小規模・家族農業のネガティブな側面が語られることは少なくありませんでした。しかし、近代的農業による負の側面、すなわち環境汚染、枯渇性資源への依存、水資源の枯渇、食の安全性、気候変動等も次第に明らかになってきました。また、近代的農業モデルの下で進んだ国際農産物・食品市場への過度の依存は、地域の食料主権を脅かしており、世界的食料危機(2007-08年)以来ますます疑問視されています。さらに、遺伝子組み換え作物など、近代的農業の発展の中で生み出された技術による環境・社会への悪影響も指摘されています。こうした中で、時代遅れだと思われていた小規模・家族農業が、持続可能な農業の実現という目標に照らして、実は最も効率的だという評価がなされるようになりました。2014年にFAO事務局長は、「家族農業以外に持続可能な食料生産のパラダイムに近い存在はない」「国や地域の開発において、家族農業を中心とした計画を実行する必要がある」と述べています。

3. なぜ今、小規模・家族農業か？

現在、世界の食料の8割が小規模・家族農業によって生産されています。小規模・家族農業は、世界の全農業経営体数の9割以上を占めています。世界の農業経営の72%は1ヘクタール未満の小規模経営ですが、世界の食料安全保障や食料主権を支える基盤になっています。また、このような小規模・家族農業は、環境保全、生物多様性の保護、地域経済の活性化においても重要な役割を果たしています。

ところが、急速な市場のグローバル化、農産物・食料の国際価格の乱高下、気候変動や災害、企業や国家による大規模な土地収奪、多国籍企業による種子の囲い込みなどに直面し、小規模・家族農業は危機的状況に置かれています。日本で起きている農林水産業者の減少と高齢化、農山漁村の過疎化、食料自給率の低下も、私たちの農業・食料生産システムが持続可能でないことを示しています。

4. 国際家族農業年とは？

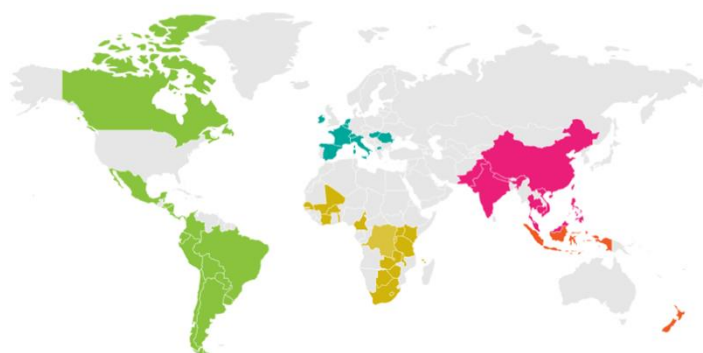
小規模・家族農業は、本来、食料生産と農業の多面的な機能の発揮において重要な役割を果たすことができますが、その機能は上記のさまざまな困難によって十分に発揮されていません。また、世界でも日本でも小規模・家族農業は政策的な支援を十分に受けてきたとは言えません。こうした状況を重く見た国連は、2014年を「国際家族農業年」(International Year of Family Farming: IYFF)と定めて、小規模・家族農業の役割と可能性を再評価し、支援に乗り出すための国際的な啓発活動を展開しました²。この年の前後から、国連をはじめとする国際機関が小規模・家族農業に関する数々の報告書³を公表し、世界各国・地域が小規模・家族農業支持の声明を公表しています。さらに、国連の持続可能な開発目標(SDGs: 2016~30年)の中でも、家族農業の役割が位置付けられています。

² 詳しくは、国連食糧農業機関(FAO)のホームページをご覧ください(<http://www.fao.org/family-farming-2014/en/>)。

³ 例えば、国連世界食料保障委員会・専門家ハイレベルパネル(2014)をご参照ください。

5. 国際家族農業年+10 とは？

2014年の国際家族農業年の成果を引き継ぎながら、さらに家族農業を支援する国際的な枠組みづくりと各国における取り組みを促進するために、世界では国際家族農業年を10年間延長するキャンペーン活動「国際家族農業年+10」が展開されています。2017年6月現在、世界約60か国にキャンペーンのサポーター組織があります(地図参照)。これまで、日本にはサポーター組織がありませんでしたが、SFFNJは日本初のサポーター組織として、「国際家族農業年+10」の活動を応援します。



6. 小規模・家族農業ネットワークの賛同者になりませんか？

SFFNJでは、活動の趣旨に賛同して頂ける方(個人・団体)を募集しています。農林漁業者、消費者、市民、行政、研究者など、農業・食料・環境・開発問題や持続可能な社会の形成に関心を持つ方を歓迎いたします。賛同者には、一緒に小規模・家族農業を応援するキャンペーン活動を展開するために、イベント情報の共有、教材提供、各地での勉強会への講師紹介等を行う予定です。小規模・家族農業を応援し、一緒に持続可能な世界をつくっていきましょう！

お申し込み先

家族農業ネットワーク・ジャパン(SFFNJ)事務局

E-mail : info@sffnj.net

7. 今後の活動予定

- (1) キャンペーン用ロゴ、バナーの活用 …素材はホームページからダウンロードできます。
- (2) イベント・学習会開催 …講師の紹介、教材の提供を予定しております。
- (3) 映画上映会を開催 …ドキュメンタリー映画「Those who sow」の日本語字幕を準備中です。
- (4) イベント情報の共有 …SFFNJのホームページ&Facebook&Twitterより情報の拡散大、歓迎です。

8. 呼びかけ人・賛同者一覧(敬称略)

呼びかけ人

呼びかけ人は、2014年の国際家族農業年以來、ともに小規模・家族農業支援を呼びかけて活動してきた仲間です。

関根佳恵(愛知学院大学) : 呼びかけ人代表

斎藤博嗣(一反百姓「じねん道」)

斎藤裕子(一反百姓「じねん道」)

野川未央(NPO 法人 APLA)

森下麻衣子(オックスファム・ジャパン)

吉澤真満子(NPO 法人 APLA)

奥留 遥樹

小林和夫(株式会社オルター・トレード・ジャパン)

市橋秀夫(埼玉大学)



賛同者

印鑰智哉

田村梨花(上智大学)

(2017年8月時点)

SFFNJ ホームページ <https://www.sffnj.net/>

「参加する」から<賛同者フォーム>があります↓



SFFNJ賛同者になります

*名前(必須)

団体名 (or肩書)

*メールアドレス(必須)

*賛同者一覧への掲載(必須)

名前と団体名 (or肩書)を両方掲載する

名前を掲載する

団体名(or肩書)を掲載する

掲載しない

お知らせを受け取る

送信